

令和6年度県民総合体育大会兼  
第11回全国高等学校7人制ラグビーフットボール大会  
茨城県予選会

ラグビーフットボール

## 大 会 役 員

会 長	大井川 和彦					
副 会 長	森作 宜民	関 正樹	岡田 裕昭			
顧 問	中村 昌平	原 浩道	安藤 真理子	設楽 詠美子	秋山 哲男	
	大和田 健	黒澤 弘忠	下路 健次郎	中島 成雄	秋山 隆	
	綿引 憲男	田山 東湖	福田 太公	会田 真一	葉梨 康弘	
	下妻 利之	川田 進	葉梨 衛	黒沢 豊	白田 信夫	
	加藤 明良	清水 定明	大久保 進司	幡谷 定俊	中嶋 鉄郎	
	遮那 誠一	水田 重則	西内 博	中川 喜久治	西條 昌良	
	新谷 和也	大川 幹雄	岡田 広	井上 忍	堀口 卓司郎	
	藤原 孝幸	根本 太涛	伊沢 勝徳			
委 員 長	藤田 知巳					
副 委 員 長	高橋 清	飛田 和宏	秋山 克巳	砂田 和広		
委 員	土井 一男	根本 政世士	高橋 勤司	岩間 信雄	鈴木 一美	
	鈴木 純一	白戸 元文	中川 繁昭	藤咲 厚郎	諏訪 正美	
	松枝 弘幸	中村 宏	海老澤 正道	川島 正敏	古矢 勲	
	折本 裕樹	額賀 富雄	小林 博史	宮下 護	廣澤 努	
	野澤 一実	鬼澤 真寿	大芦 昌治	高橋 義道	木内 広史	
	後藤 裕一	鴨志田 勝次	齊藤 克朗	柴田 淳	中沢 隆一	
	大塚 雅俊	高橋 昇	地頭 薫	萩野谷 豊光	横山 良子	
	久野 篤	熊澤 善信	河西 徹	久保 正幸	鹿窪 茂	
	鈴木 但義	福永 広明	鎮目 英俊	直江 良雄	田城 真一	
	相田 良裕	永盛 圭一	中條 文樹	宮崎 健太	稲見 誠	
	江連 昌治	中口 直仁	柳田 剛志	大久保 真弓	茂呂 允文	
	柳瀬 武史	小澤 伸介	大島 遼太郎	塙 秀斗	平澤 誉志幸	
	竹谷 淳					

(順不同敬称略)

令和6年度県民総合体育大会兼第11回全国高等学校  
7人制ラグビーフットボール大会茨城県予選会 実施要項

1 主 催

(公財)茨城県スポーツ協会

2 主 管

茨城県高等学校体育連盟ラグビーフットボール専門部

茨城県ラグビーフットボール協会

3 目 的

- (1) オリンピックに向けた7人制ラグビーの強化・普及を目指す。
- (2) 7人制ラグビーの優秀選手を発掘する機会を設けてセブンズの強化に寄与する。
- (3) ラグビー競技への単独チームでの出場数を増やす。

4 期 日

令和6年6月15日(土)・16日(日)

5 会 場

水戸市立サッカー・ラグビー場

水戸市河和田町 3438-1

6 競技規則

(公財)日本ラグビーフットボール協会制定の令和5年度競技規則による。

7 競技方法

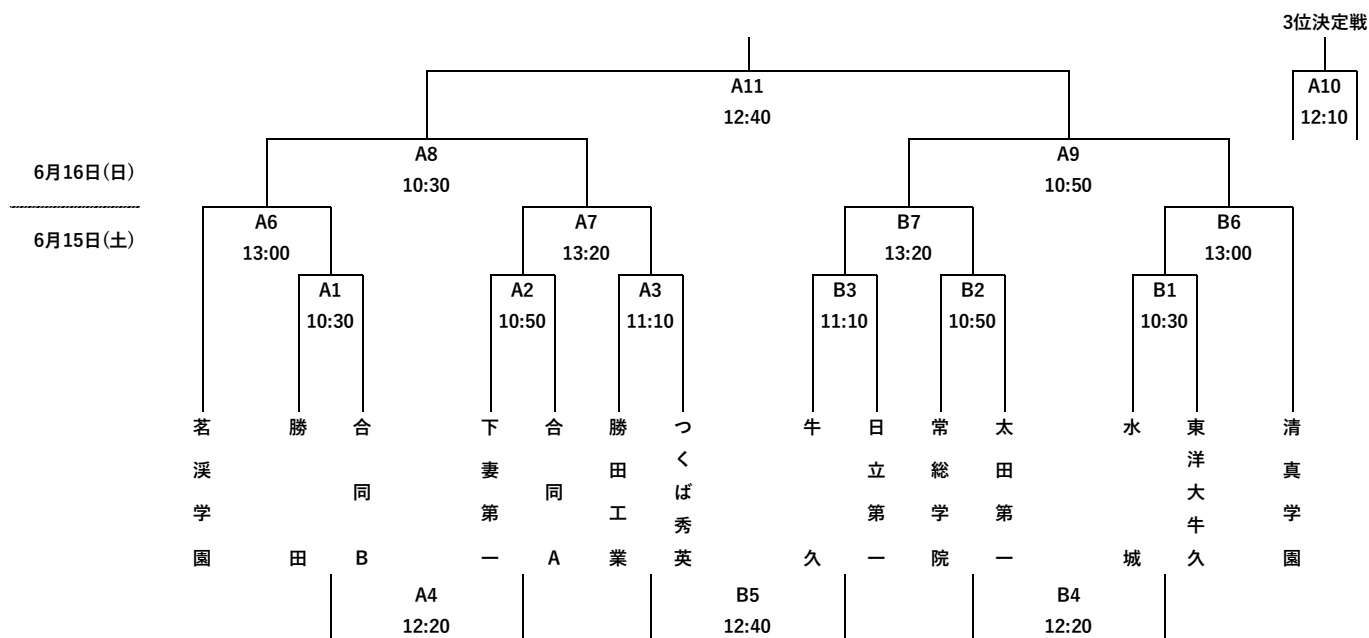
- (1) 14チームによるトーナメント戦を行う。
- (2) 試合時間は7分ハーフとし、ハーフタイム2分以内とする。
- (3) ハーフタイムはサイドチェンジとし、ベンチに戻らない。
- (4) 得点が同点の場合は、下記の基準と順序によって順位を決定する。
  - ア 前後半終了時点で同点の場合は、トライ数の多いチームを上位とする。
  - イ トライ数が同じ場合には、ペナルティートライ(P・T)の多いチームを上位とする。
  - ウ ペナルティートライ(P・T)も同じ場合は、抽選により上位チームを決定する。

- (5) 決勝戦が点数・トライ数ともに同数の場合は両校優勝とするが、5分間の延長戦を行い、スコアにより勝敗を決し、全国大会への出場権を得る。延長で勝敗が決さない場合は、抽選の上、決定する。
- (6) 雷等の場合は、日本ラグビーフットボール協会競技規則に則る。
- (7) シンビンは、2分間とする。
- (8) トーナメントの組み合わせは、5月17日（金）に行う。

## 8 日程

6月15日(土)	6月16日(日)
8:30 集合・準備	8:30 集合・準備
9:00 打ち合わせ	9:00 打ち合わせ
9:30 ドレスチェック	10:30 競技開始
10:30 競技開始	13:00 競技終了
13:40 競技終了	13:05 表彰
13:40 片付け・打ち合わせ	13:10 片付け・打ち合わせ
14:30 解散	14:00 解散

## 9 組合せ



A：水戸市立サッカー・ラグビー場天然芝グラウンド  
 B：水戸市立サッカー・ラグビー場人工芝グラウンド

合同A：磯原郷英・水戸第一・水戸農業  
 合同B：土浦工業・つくば国際大学東風・下館第二・下館工業・守谷・取手第一

## 10 参加チームおよび参加選手の資格

- (1) 参加チームは学校教育法に定める高等学校に所属するチームで、本県の高等学校体育連盟並びにラグビーフットボール協会に加盟していること。  
全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (2) 茨城県ラグビーフットボール協会に加盟している高校生のクラブチームも参加できるものとする。
- (3) 1チームの登録選手は7名～15名とする。ただし1試合のエントリーは12名までとする。試合毎に12名を変更することはできる。大会規定上、10名に満たないチームは全国大会に進出できない。
- (4) 参加選手の資格は校長が学業、身体、人物など適当と認めたもので、次の諸項に該当する者であること。
  - ア (公財)日本ラグビーフットボール協会に個人登録をしている者。
  - イ 年齢は、平成17年(2005年)4月2日以降に生まれた者とする。ただし、出場は、同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。
  - ウ 転校後6ヶ月未満のもの参加を認めない。(外国人留学生もこれに準ずる)ただし、一家転住等やむを得ない場合は、各都道府県高等学校体育連盟会長の認可が必要である。
- (5) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
- (6) 部活動にひたむきに取り組んでいる生徒を救済するための教育的配慮に基づき部員不足による複数校合同チームによる大会参加を認める。大会規定上、部員不足による複数校合同チームは全国大会に進出できない。
- (7) 留学生・外国人選手の出場について
  - ア 留学生は、卒業を目的とした留学生に限る。
  - イ 登録については、選手登録が10名～12名の場合は2名まで、13名～15名の場合は3名までとする。試合ごとのエントリーは2名までとする。
  - ウ 出場できる人数は1名とする。+
- (8) (公財)日本ラグビーフットボール協会の「日本協会 選手・役員規定」に違反する者は参加できない。
- (9) その他、参加資格に疑義がある場合は大会事務局(規律委員会)で裁定する。
- (10) 参加資格の特例
  - ア 上記(1)に定めるチームの生徒以外で、(2)～(7)の大会資格を満たし、かつ本県高等学校体育連盟が推薦する生徒を別途定める規定に従い、大会参加を認める。
  - イ 上記(5)イの但し書きについては、各学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の出場は、3回限りとする。

## 11 罰 則

- (1) 資格を偽った者、参加資格のない者が参加した場合は、そのチームを大会より除名し、次回大会の参加も認めない。なお、この場合は、事態発見の時の相手チームの勝者とし、それ以前のものには触れない。
- (2) その他スポーツマンシップに反する行為があった場合は前項に準ずる。

## 12 表 彰

優勝および準優勝、3位チームを表彰する。

## 13 参加手続

参加チームは6月15日(土)の9:00までに大会事務局にチーム・選手登録用紙に記入して提出すること。

## 14 健康管理

大会参加に当たっては、あらかじめ健康診断を受けさせる等、選手の健康管理に十分留意すること。

大会実行委員会事務局

茨城県高等学校体育連盟ラグビー専門部 担当 安藤 崇

〒300-2655 茨城県つくば市島名 151 つくば秀英高等学校内

TEL:029-847-1611 FAX:029-847-3111 e-mail:ando.takashi@tsukubashuei.com

「大会参加資格の別途に定める規定」

- 1 学校教育法第72条、115条、124条及び134条の学校に在籍し、都道府県高等学校体育連盟の大会に参加を認められた生徒であること。
- 2 以下の条件を具備すること。
  - (1) 大会参加を認める条件
    - ア 全国高等学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。
    - イ 参加を希望する専修学校及び各種学校にあつては、学齢、修業年限ともに高等学校と一致していること。また、連携校の生徒による混成は認めない。

ウ 各学校にあつては、都道府県高体連の予選会から出場が認められ、全国大会への出場条件が満たされていること。

エ 各学校にあつては、部活動が教育活動の一環として、日常継続的に責任ある顧問教員または指導者の指導のもとに適切に行われており、活動時間等が高等学校に比べて著しく均衡を失っていない、運営が適切であること。

(2) 大会参加に際し守るべき条件

ア 全国高等学校総合体育大会開催基準要項に準じて、競技種目大会申し合わせ事項等に従うとともに、大会の円滑な運営に協力すること。

イ 大会参加に際しては、責任ある教員または指導者が引率するとともに、万一の事故の発生に備えて傷害保険に加入しておくなど、万全の事故対策を講じておくこと。

ウ 大会開催に要する経費については、応分の負担をすること。

## 7人制ラグビーについて

### 1. ラグビーの基本ルール

#### (1) ゲームシステム

##### ① 試合時間

試合時間は前半 40 分、後半 40 分。80 分間全力で戦う競技です。前半と後半の間にとるハーフタイム（休憩時間）は基本的に 15 分以内となっています。全国高校大会は前後半それぞれ 30 分です。

##### ② 出場人数

出場人数は 1 チーム 15 人。両チーム合わせて 30 人で試合を行っています。1 チーム 23 人まで選手登録ができ、出場 15 人の残りの 8 人はリザーブと呼ばれます。

##### ③ フォーマーション

15 人それぞれにポジションが決まっています。大きく分けるとフォワード（FW）と呼ばれる前の 8 人と、バックス（BK）と呼ばれる後ろの 7 人に分けられます。

#### (2) 基本ルール

##### ① ラグビーは後ろにパス

ボールより前方にいるプレイヤーにパスすることを禁じています。ボールより前に出てプレイすることも禁じています。

##### ② ボールを前進させるには

ボールを前進させるには、ボールを持って進むか、または前方に向かってキックをして、敵陣のゴールラインを目指していきます。

##### ③ 相手の前進はタックルで阻止

守る側の選手は、相手の前進をタックルして阻止します。ボールを持っている選手にしかタックルはできません。

#### (3) 得点方法

##### ① トライ・・・5点

敵陣インゴール内の地面にボールをつけることをトライと言います。

##### ② ゴールキック・・・2点

トライ後に攻撃側の選手がキックを成功させると与えられる得点です。H型ボールの内側かつ、クロスバーの高さを超えて、通過すれば2点が加算されます。

##### ③ ペナルティゴール・・・3点

相手チームが重い反則をした場合、ペナルティゴールをする権利が与えられます。ペナルティキックを得た地点からボールを地面においてキックし、成功すれば3点加算されます。



④ ドロップゴール・・・3点

通常のプレー中に、ボールを地面に落とし、跳ね返ったボールを蹴ることにより、ゴールキックを成功させるものです。成功すれば3点加算されます。

(4) プレーの再開

① スクラム

軽い反則、あるいは競技の停止があった後、早く、安全に、公平にプレーを再開するために行われるものです。両チームのFWの選手各8人が組み合い、9番（スクラムハーフ）が入れたボールを掻き出します。

② フリーキック

軽い反則があった場合に、相手チームに与えられるキックです。直接ゴールは狙えません。タッチに蹴り出すと相手ボールでの再開になります。

③ ペナルティキック

重い反則があった場合に相手チームに与えられるキックです。直接ゴールを狙うことができます。タッチラインに蹴り出すとマイボールでの再開になります。

④ ラインアウト

ボールがタッチラインの外に出た場合のプレー再開方法です。マイボールのチームがタッチラインから投げ入れるボールを、両チームがタッチラインから5m~15m離れた場所で奪い合います。

2 7人制と15人制の違いについて

内容	15人制	7人制
グラウンド	100m×70m	同じ
人数	FW8人、BK7人	FW3人、BK4人
スクラム	8人	3人
試合時間	40分ハーフ	7分ハーフ
ハーフタイム	15分以内	2分以内
交代人数	8人まで	5人まで
試合再開	トライされたチームのキック	トライをあげたチームのキック
ゴールキック	ドロップキックでトライ後40秒以内、チャージ禁止	プレースキックまたはドロップキック
シンビン	10分	2分

### 3 ラグビーの反則について

反則後の再開方法 : ペナルティで再開	
反則名	事象
オフサイド	プレーに参加してはいけない場所にいる選手がプレーに参加した
ノットリリースザボール	タックルされた選手が、倒れた後もボールを離さなかった。
ノットロールアウェイ	タックルした選手が、倒れた後にすぐにその場から離れずに、次のプレーの邪魔をした
オーバーザトップ	ラックで、故意に相手側に倒れ込む
ハイタックル	相手の肩より上部にタックルをする
オブストラクション	ボールを持っていない選手が、相手選手を妨害する
コラプシング	スクラム・ラック・モールを故意に崩すこと
インテンショナル・ノックオン	故意にノックオンをする

反則後の再開方法 : フリーキックで再開	
反則名	事象
ノット1メートル	ラインアウト時に相手との間隔を1 m空けなければいけないが、それを行わなかった
ノット5メートル	ラインアウト時に、投入したボールをキャッチした地点がタッチラインから5 m離れていなかった
ノットストレート	スクラム時にボールを真っ直ぐ投入しなかった
アーリーエンゲージ	スクラム時にレフェリーの合図よりも早くスクラムを組んだ
フットアップ	スクラム時にボールが投入される前にH0が足を上げ、フッキングの準備をした

反則後の再開方法 : スクラムで再開	
反則名	事象
ノックオン	ボールが手または腕に当たり、前に落とした
スローフォワード	ボールを前に投げた
アクシデンタルオフサイド	ボールを持っている選手が、偶然、前にいる味方選手とぶつかってしまった
ノットストレート	ラインアウト時にボールを真っ直ぐ投入しなかった ※反則をしなかった側は再開方法をスクラムかラインアウトか選択できる